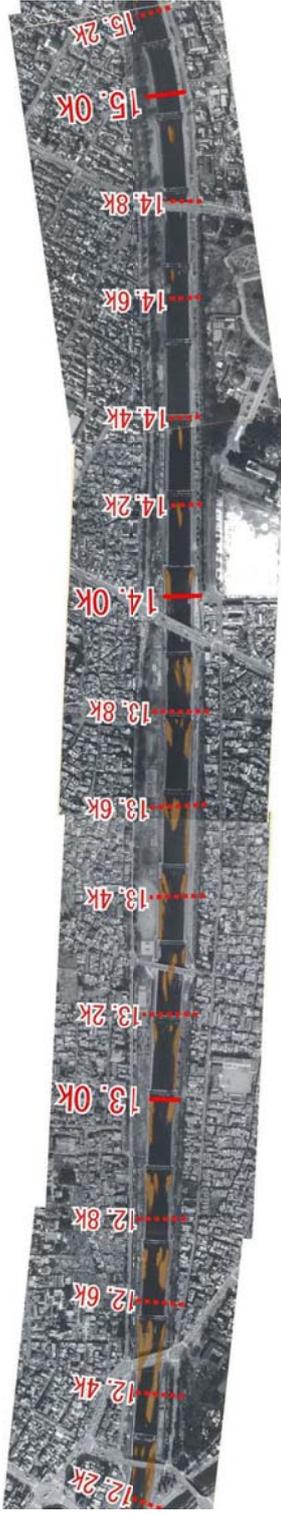


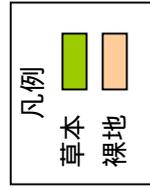
# 中州の経年変化 (12.2k~15.2k)



10年後



20年後



今後、土砂が固結して陸地化が進む

出雲路橋上流（13.4k付近）

【昭和59年2月】



【平成9年3月】



【平成16年10月】



出雲路橋上流では平成8年度に中洲の除去が行われました。その後、約10年が経過して中洲が形成され、植物の繁茂によって土砂が流れにくい状態になっています。

凡例  
 草本  
 裸地



出雲路橋より上流を望む【平成20年8月】

## 中州管理の方針（案）について

### 各区間の現状

区間	距離標	河床変動	治水・土砂管理上の課題	備考
桂川合流点 ～七条大橋	0～7.6km	河床は低下 傾向	河床掘削による河積の拡大 を図る区間	
七条大橋 ～二条大橋	7.6～10.4km	河床は低下 傾向	目標規模の洪水に対して余 裕が全くないことから、河 積を減らさない日常的な管 理が必要	
二条大橋 ～柊野堰堤	10.4～17.9km	河床は上昇 傾向	流下能力はあるが、自然の 攪乱がなく、乾陸化が進行 している。激変緩和のため の定期的な土砂管理が必要	

### 中州管理の方針（案）

区間	管理の実施方法	備考
桂川合流点 ～七条大橋	今後河床掘削を下流から順次実施 維持管理は行わない（環境対策区間は引き続き河 床整正を実施）	
七条大橋 ～二条大橋	河積を確保するため、土砂堆積が認められ次第、 随時河床整正を実施	
二条大橋 ～柊野堰堤	20年程度でほぼ全面が乾陸化する状況であること から、概ね10年程度のサイクルで河床整正を実施 する 各橋梁間(14橋梁)を1年に2橋梁間程度ずつ、環 境に影響の少ない3月 or 9月に河床整正を実施 整正の方法等詳細については、府民会議等の意見 も踏まえ、当面は試行錯誤を重ねながら決めてい くものとする  高野川（鴨川合流点から三宅橋までの区間）に ついても、同様の中州管理を行うものとする。 （10橋梁）	上流ほど水量が 少なく、全面均一 に整正を行うと 水深が浅くなり すぎることや区 間毎に条件も異 なることなどか ら整正の範囲や 形状等詳細につ いては、色々なや り方を試し、効果 や環境等への影 響も確かめなが ら改善を図って いくことが望ま しい。